

北中だより



<http://nk-kitanaka-j.la.coocan.jp/>

中野区立北中野中学校

★ 藤井聡太氏の8冠達成から学ぶもの…

校長 津村 慶

10月11日、将棋界で歴史に残る偉業が達成されました。藤井聡太・名人が永瀬拓矢・王座を破り、将棋界の8つのタイトル「名人」「棋王」「王将」「竜王」「王位」「叡王」「棋聖」「王座」をすべて独占し史上初の8冠を達成しました。これまでに全タイトルを独占した棋士は3名しかいません。しかも、最初の2名の時代はタイトル数も少なく3冠から5冠でした。タイトル数が増えてからは、現在も活躍する羽生善治氏が1996年に達成した7冠独占が最後です。以来25年以上、誰も成しえなかった全冠独占を8冠に増えた状況で21歳の藤井氏が達成したことは、まさに快挙です。

一方、対戦相手の永瀬氏は王座のタイトルに就いて4連覇中。今回のタイトル戦に勝利して5連覇を成し遂げると、史上3人目となる「名誉王座」の称号を得られる絶対に負けられない戦いでした。

今回の王座をかけたタイトル戦は五番勝負。5回の勝負のうち、先に3勝したほうが勝ちとなります。1戦目は藤井氏が29連勝という記録をもち、絶対的な勝率を誇る先手で始まりましたが、永瀬氏が粘り続けた末に逆転し、勝利を収めました。「将棋は逆転のゲーム」と言われるほど、たった1手のミスで形勢がガラッと変わってしまいます。だからこそプロの棋士たちは、常に断崖絶壁の上の細道を歩くような心境で1手1手を指していくのだそうです。

第2戦と第3戦は両者とも譲らない一進一退の攻防の中、僅かな差で辛くも藤井氏が勝利します。

藤井氏の2勝1敗で迎えた第4戦。永瀬氏は綿密に準備した作戦で序盤から優勢を築き、藤井氏は苦しい展開となります。序盤を終えた時点で、持ち時間(次の手を考えるために使える時間)5時間を永瀬氏が5分しか使っていないのに対して、藤井氏は2時間48分も使ってしまう、圧倒的に不利な状況に陥ります。しかし藤井氏は、取り返しのつかない決定的な状況に追い込まれないように、辛抱に辛抱を重ねた粘りを見せます。藤井氏の必死の粘りに永瀬氏も考える時間が長くなり、ゆとりがあった持ち時間を中盤で大きく減らしましたが、対戦後の会見で藤井氏が「中盤以降も、的確に指されることが多かった」と振り返るように、永瀬氏は徐々に藤井氏を追い込み、勝利を引き寄せていきました。この時点で戦局の行方を分析するAIの判定では83%永瀬氏の勝利となっていました。そんな中、藤井氏の必死の抵抗に持ち時間を使い果たした永瀬氏も、1分以内に次の手を指さなければならぬ「魔の1分将棋」と呼ばれる状況に入ります。持ち時間がなくなり、1手ごとに記録係による秒読みがされる中、藤井氏が逆転不可能なことを確信してうつむきながら122手目を指すと、AIによる藤井氏敗北の確率は99%に上がります。中継番組の解説者が永瀬氏勝利までの手順を先読みして解説するほど、藤井氏は決定的な状況に追い込まれますが、次の瞬間に奇跡が起きます。百戦錬磨のはずの永瀬氏が「1分将棋」のプレッシャーから指し手を間違え、藤井氏に逆転の隙を与えてしまったのです。その瞬間、AIの勝利判定99%が16%に下がり、藤井氏はその隙を見逃すことなく攻め、土壇場での大逆転勝利を収めました。

後日の記者会見で藤井氏は「このような結果を出せたことはすごく嬉しく思っています。一方で、今回も本当に苦しい将棋が多く、実力としてはまだまだ足りないところが多いと感じていますので、この地位に見合った実力をつけられるよう、一層取り組んでいかなければと思います。」と語りました。



将棋界の頂点に登り詰めた後も、奢りや慢心に陥らず、さらに修練を続けようとする謙虚な精神、そして、窮地に陥っても最後まで諦めずに最善の努力をすることの大切さを学んだ気がします。

3年生修学旅行報告記 Part-1!!

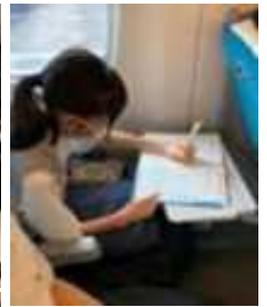
夏休み明けの9月6・7・8日、3年生が楽しみにしていた奈良・京都の修学旅行に出かけました。

9月6日、集合場所の東京駅丸の内口の地下道には集合時間前にすべての班が到着しました。新幹線の中では、興奮気味に盛り上がる男子や早起きをしたせいで寝てしまっている女子など様々でしたが、勉強道具を広げて学習する姿も見られ、3年生としての意識の高さを感じられました。ほぼ予定通りに京都に到着し、近鉄線の特急列車に乗り換えて車内で昼食。12時過ぎには近鉄奈良駅に到着しました。

今回は1日目の奈良から班行動です。通信機能付きのiPadが配られ、設定を確認した後でいよいよ出発。曇り空で小雨が降ったり止んだりといった天候でしたが、全体の約半数の班が薬師寺や唐招提寺へ、4分の1が法隆寺へ、残り4分の1が東大寺周辺や春日大社を目指しました。中には平城宮や新薬師寺など、団体行動では訪れない場所に向かった班もありました。到着時間が遅れて見学時間が短くなるなど、多少のトラブルもありましたが、各班とも計画に沿って散策を進め、班行動の終了時刻前には全班が興福寺に集まりました。そして閉館後の興福寺国宝館を特別拝観。専属ガイドさんについて中に入り、有名な阿修羅像の他、天平美術の傑作と言われる帝釈天像や梵天像などを30分間にわたり見学しました。

その後はバスで若草山の上にある宿へ。奈良市内が見渡せる絶好のロケーションで、ロビーやそれぞれの部屋からの眺めも抜群でした。大広間での夕食は、牛鋤鍋の他、焼物、煮物、揚物に茶碗蒸し、そうめん、生野菜、汁物、葛餅と奈良の日本旅館らしいメニューでした。食後の入浴も露天風呂付きの大浴場で、生徒たちは大満足だったようです。

入浴後の薬師寺のお坊さんによる法話では、普段は日本各地の講演会で忙しく修学旅行には来ることの少ない大谷ご住職が特別に来てくださいました。歯に衣を着せない語り口調で生徒たちの気持ちを引きつけながら「どんなに素晴らしい話でも、それに興味を持たなければ価値のないものに聞こえてしまう。」「自分の運命(人生)を切り開いていくのは自分自身の力しかない。だからこそ、与えられた命を大切に、精一杯に生きることが必要だ。」と冗談交じりに楽しく教えてくださり、1時間の法話があつという間に過ぎていきました。



3年生修学旅行報告記 Part-2 !!



2日目は澄み渡る青空が広がる絶好の天気でした。部屋を片づけて荷物を京都に送った後、朝食を食べ、若草山を降りました。クラスごとに写真撮影をして、大仏殿の見学へ。朝の早い時間だったせいか大仏殿はとても空いていて、ゆっくりと見学することができました。清々とした雰囲気の中、どこか凜とした空気が感じられる大仏殿の見学で少し得をしたような気分になりました。

大仏殿の後は、班の計画に沿って京都を目指します。「平成の大改修」を終えて色鮮やかになった平等院を目指す班はJRで、他の班は近鉄で京都へ。この日の一番人気は何といても伏見稲荷大社です。京都へ向かう途中に訪れる班がほとんどですが、中には平等院を見学した後に伏見稲荷に向かう班もあり、実に全体の7割以上が訪れました。

午後は雲が広がりましたが雨は降らず、まずまずの天候。午後の見学地の一番人気はやはり清水寺です。参道で買い物やグルメを楽しみながら清水坂を登っていく生徒の姿が印象的でした。他には、三十三間堂や東寺、天龍寺などを訪れる班もあり、嵯峨野にある「竹林の小径」という“映えスポット”を訪れた班もありました。奈良から京都へ移動しながら多くの見学地に足を運んだため、計画が押して最終見学地をカットした班もありましたが、全班がほぼ時間通りに宿に到着しました。

夕食と入浴を済ませてから、2日目の夜は漆器の加飾体験を行いました。サンプルの図画から複数を組み合わせる生徒や、オリジナルの図柄で絵付けをする生徒など様々でしたが、皆、丁寧に作業を進めていて、仕上がりが期待できる作品が多かったように感じました。文化発表会の展示でお披露目しますので、楽しみにしてください。

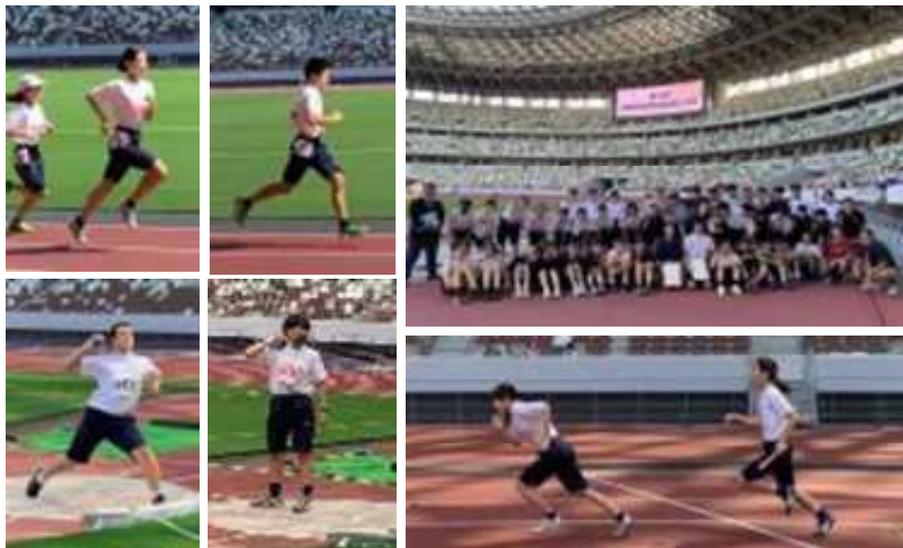


3日日も晴天の青空が広がりました。この日はタクシー行動で効率よく見学地をまわります。朝食後、鴨川の河川敷で記念写真を撮ったクラスから運転手さんと顔合わせ。この日の一番人気は金閣寺で約8割の班が訪れました。次に人気だったのは受験生だけに北野天満宮。皆、しっかりと合格祈願をしたようです。昼食を含めて4時間半の行動時間をめいっぱい楽しみ、京都駅への集合もほとんどの班が時間を守って到着しました。三日間を通して計画と時間を意識した班行動ができたことに三年生としての成長を感じた修学旅行でした。



中野区連合陸上競技大会で北中生が躍動!!

9月28日、東京オリンピックのメイン会場となった国立競技場で中野区連合陸上競技大会が開催されました。各学年から選抜された選手45名がそれぞれの種目で練習の成果を発揮し、参加した全13校の中で男子総合4位、女子総合4位という好成績を残しました。また、午後には社会科見学で都内の施設を見学した3年生が競技場に集まり、区立中学校対抗40人リレーや国立競技場のトラックを走るFUNRUN体験などに参加しました。



合唱、発表、演奏で北中生の文化の力を発揮!!

10月21日、なかのZERO大ホールで文化発表会を実施しました。午前中の合唱コンクールでは、1年生とは思えないほど声量のある歌を披露した1年生、男女のバランスや楽譜を意識した表現力のある歌に仕上げた2年生、そして1・2年生を凌ぐ迫力のある歌声で聴いている人の心を震わせる合唱を作り上げた3年生など、それぞれの学年の良さが感じられる内容でした。午後は、北中サイエンス賞に輝いた2C、S・Hさんの「紙ストローの限界はどこなのか」と、豪雨災害に焦点を当てた社会科探検部の「もし妙正寺川が氾濫したら」など調査や分析が光る発表が続きました。最後は吹奏楽部が30人の部員の気持ちを繋げた一体感のある演奏で会場を盛り上げてくれました。北中生の文化的な面での実力が発揮された発表会でした。

また、今年度の文化発表会は「自分たちの手で作る文化発表会」というテーマを大切に、合唱の練習計画は勿論のこと、当日の係活動でも多くの仕事を生徒が担いました。その点でも充実した発表会だったと感じます。受付やホールの座席準備等でお手伝いをしてくださった父母と教師の会の皆様にも感謝を申し上げます。

